

Do CL Column

CL学習会を解散

—相談室バナーデイズ—

小木 晴代

h-ogis8doCL@tbz.t-com.ne.jp



20年以上続いていた学習会をいったん散会としました。コロナ禍をきっかけに、会員が卒業する機会になりました。この会は、もともとは、「不登校の子をもつ親の会」としてスタートしました。学校に行かず、引きこもって昼夜逆転している子供たちに、親は戸惑い、親自身も苦しい日々を過ごしました。学校に行かない理由がはっきりしている子、わからない子いろいろでした。精神障害や発達障害と診断を受けた子たちもいました。そんな子供たちに親としてどう接していくか、親自身の精神状態をどう保つかなどは、CLの教えが役立ったようです。メンバーは励まし合い、苦しい気持ちをシェアする貴重な仲間になりました。東京、千葉、茨城県の各地から月に一回、柏の相談室に集まりました。途中で退会する人は少なく、一緒に難局を乗り越えてきました。

20年という年月には、各家庭で様々な変化があり、それをまた、披露しあうことで、CLの教えを再確認しながら成長しました。メンバーの子供たちの多くは自立しました。就職や結婚と、うれしいニュースは続いています。孫を授かるメンバーも増えています。学習会参加者がコロナ禍でもCLの学びを生かして、より豊かに生きている様子は前号でご紹介しました。

病的な症状があってもCL的生き方をすることで症状が改善されている人たちがいます。この季刊誌に記事を書いているかなえさんは、お母さんが学習会のメンバーであった関係で、個人相談を受けに来ました。彼女はCL本をよく読み、理論を理解しようと努め、頭でわかったことを行動に移し、実体験から多くを学びました。私の模範生です。最近、結婚しました。

強迫性障害で悩んでいた青年は、農業従事者になりました。頭で考え、悩み続けていた日常から、行動を増やし、なすべきことに向かって努力した結果です。よい出会いがあり、結婚して二人で有機農法での野菜作りをしています。ある時、スーパーで彼の名前が入った野菜を見つけて仰天したことがありました。

メンバーは生き方の知恵を身につけました。学習会は再開できなくても、安心して終わることができず。

改めて、レイノルズ先生に感謝します。(千葉県千葉市インストラクター)

 [目次へ戻る](#)